

住吉市民病院廃止へ住民説明会

「なくすな」の声噴出

「身を切る改革を」と叫ぶ松井一郎知事・おおさか維新の会代表ですが、切ったのは市民の暮らしに不可欠な住民サービスでした。その一つが地域の小児・周産期医療を担いながら2018年3月に閉院予定の大阪市立住吉市民病院(大阪市住之江区)です。地域で開いている住民説明会では計画に理解を示す声は聞かれず、「なくさないで」という悲鳴に近い声が噴出しています。

生活成り立たなくなる

市民病院で3人の子どもを出産した女性(38)は、「市民病院がなくなれば生活が成り立たない」と話します。「きょうだいがいるから、出産の時も病院が近くて助か

った。去年の秋も長男(6)と次男(2)が市民病院で入退院を繰り返して、長女(4)の世話もしながらやっていけるのは、近くに市民病院があるから」

説明会では参加者が「無理な計画はやめて、市民病院を残して欲しい」と口々に訴えます

維新の「身を切る改革」切ったのは市民の生活

が、市は「方向性は出された」と突き放しています。

地元医師会も疑問視を

大阪市(吉村洋文市長)とおおさか維新府内議員・首長団の長)は地域の医療機能を低下させないとしていますが、地元医師会からも疑問視されています。

計画では市民病院跡地に誘致する民間病院と約2キロメートル離れた府立急性期・総合医療センター敷地内に建設する新病棟とで、医療機能を引き継ぐとしています。

誘致する病院は同区で開業する南港病院が決まっています。決まるまで



2018年3月に閉院予定の住吉市民病院

も市民病院の8人から3人へ大幅に減ります。小児科病棟は新病棟と合わせても22床減り、子どもの急患に多い下痢や発熱など感染症の流行に対応できないと指摘されています。

この地域では、年間約300件の分娩を扱っている阪和住吉総合病院(同市住吉区)がことし10月末で産婦人科を閉鎖すると発表しました。この病院の産科医が、南港病院が確保した医師でした。

計画進むほどこに矛盾が

松井知事は昨年12月に国への申請を強行。国は「知事が地元で丁寧な説明をする」と聞いている(塩崎恭久厚労相と、あっさり同意して後押ししました。

この計画はとても無理

市議会では市民病院の廃止にあたり、病院の機能を存続させることも地域で以前から不足している小児・周産期医療を充実させるといふ付帯決議を上げています。しかし計画が進むほど矛盾が深まっています。

再公募でも採用できず

は市は2度公募しましたが、条件を満たす病がいずれも失敗し、個別交渉に切り替えました。条件を引き下げた再公募でも小児科医1人の確保すら不安が残る応募者を採用しませんでした。

当初は必要な小児科医師の数を、市民病院の機能を維持するために不可欠な5人以上としていました。南港病院は小児科の医師を1人しか確保できず、大阪市と府から1人ずつ派遣します。それで